
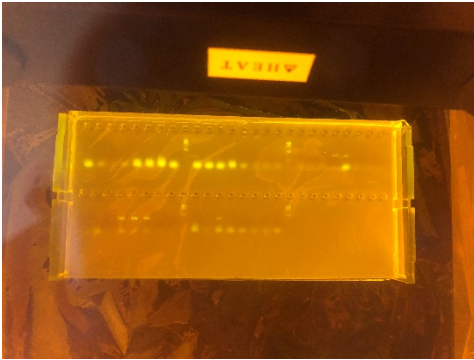
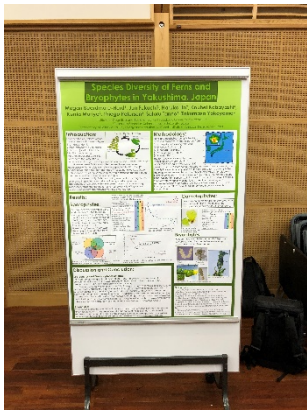


「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 30 年 6 月 7 日	
所属部局・職	瀬戸臨海実験所・修士課程学生
氏名	福地 順

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)	
日本, 京都	
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
ゲノム科学実習 (植物班)	
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)	
平成 30 年 5 月 28 日 ~ 平成 30 年 6 月 1 日 (5 日間)	
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学植物学教室, 高山浩司博士	
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果 : 長さ自由)	
<p>写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。</p> <p>屋久島フィールド科学実習で採集したシダ植物の配偶体サンプルを用いて、植物組織からの直接 PCR を行った。PCR 産物に対して、アガロースゲルを用いた電気泳動を行い、PCR 反応の質を評価した。PCR 産物の精製後、サイクルシーケンシングを行った。エタノール沈殿法により、シーケンス産物を精製した。ABI3130xl ジェネティックアナライザを用いて、DNA サンプルのシーケンスを行った。合計で、<i>rbcL</i> 領域の部分塩基配列を 28 配列得られた。BLAST 検索により、それぞれの配列の種を同定した。2 配列に関しては、種レベルまで同定することができたが、5 配列に関しては、属レベルまでしか同定することができなかった。シダ植物の孢子体の分布パターンを R というソフトウェアを用いて解析した。低緯度のサンプリング地点 (第 1・第 4 地点) では、シャノン・ウィーナー指数がより高い値を示した。一方、高緯度のサンプリング地点 (第 3 地点) は、最も低い値を示した。NMDS プロットから、第 1・第 4 地点はシダ植物の種組成が類似していることが示唆された。『第 8 回生物多様性と進化に関する国際セミナー：環境 DNA 解析による野生動物科学』でポスター発表を行った。</p>	
	
図 2. PCR 産物を精製している様子。	図 1. アガロースゲルによる電気泳動の結果
	
図 3. 植物班の研究ポスター。	
6. その他 (特記事項など)	